

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 110号

2014/09/15 発行  
株式会社 立花商店  
坂元 麻美

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、市況の動き：両市場とも下落＝NYでは先週比で約2.7%下落、一時3か月ぶり安値

① 最高 12月 LDN 市場£1,995 /12月 NY 市場\$3,079 (9/9) 先週比 **LDN-£14/NY-\$86**  
② 最低：12月 LDN 市場£1,969 /9月 NY 市場\$3,028 (9/11) 先週比 **LDN-£14/NY-\$74**  
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£26 (傾向↑) / NY 市場\$51 (傾向↑)  
週内建玉推移：LDN市場 268,970枚(9/5終了時)⇒250,714枚(9/11終了時) **-18,256枚**  
NY市場 210,784枚(9/5終了時) ⇒204,450枚(9/11終了時) **-6,334枚**

### 2、カメルーン：2013/14期のカカオ豆収穫量＝8%下落(9/5)

カメルーンのカカオ・コーヒー委員会(NCCB)によると、2013/14期のカカオ豆の収穫量は、前年の22万8948トンから約8%下落し20万9905トンとなった。

カメルーンは世界第5位のカカオ豆生産国であるが、同国からのカカオ豆輸出量は2012/13期の19万6788トンから約20%近く下落し15万8000トンとなった。また同国には今シーズンの終わりである7月31日時点で5828トンの在庫があった。

Cocoa and Coffee Inter-professional Board( CCIB )の長官の Omer 氏は「我々は2013/14期のカメルーンのカカオ豆生産量は昨シーズンより増加し24万トンに達すると期待していた。しかし残念なことにその逆で生産量は減少した。」と述べた。

彼はまた「その原因は主に天候条件が悪かったことによる。昨年の雨季はカメルーンの通常の雨季とは状況が違っていた。雨が12月の中旬まで続き、その結果ブラックポッド病を引き起こした。」と続けた。

NCCB 代表の Maledy 氏によると、カメルーン産カカオ豆の輸出量の77%は、輸出業者大手5社(Telcar Cocoa Ltd, Olam Cam, Cameroon Marketing Commodities, Ets Ndong Essomba, PRODUCAM)によって出荷されている。また輸出量の約66%はオランダに向けられ、続いて10.6%がベルギーへ、10.4%がマレーシアへ出荷される。

カメルーン産カカオ豆のうち合計3万2804トンは国内の圧砕業者によって加工されており、その最大手がバ

リーカレボアの関連会社の Sic-Cacaos や CHOCOCAM となる。

### 3、カカオ豆価格上昇＝ココアバターの代用油脂への切り替え進む(9/5)

経済成長が著しいアジア市場において、チョコレート製造メーカーはチョコレートに多く含まれるココアバターをパーム油ベースの代用油脂へと切り替える動きをみせている。

市場調査会社の Euromonitor International によると、今後チョコレートの需要が 5%以上伸び、91 万 7000 トンとなる見込みであるアジア地域において、こうした動向はコスト削減の助けとなる。

需要の 5%増は、米国の 1%増、欧州の 1.5%増と比較するとはるかに大きな成長である。

パーム油由来のココアバターの代用油脂は、ココアバターと比較し格段に安い。Cocoa Butter Equivalent(CBE)として知られる代用油脂への高まる需要により、ここ 1 年で価格が 10%上昇しトンあたり \$3300 となったが、それでもカカオ豆から作られるココアバターと比較し \$4000 も安くなる。

シンガポールで製パン業界やアイスクリーム業界、食品業界へチョコレートを販売している Aalst の代表は「我々は通常 CBE など買わないが、今は顧客からコスト削減を求められ買うようになっている。今後バター価格が戻ったら、その時は CBE を原料として使用しないだろう。」と述べた。ちなみに Aalst では昨年比で CBE の購入量が 3～4 倍になっている。

アジアのチョコレートメーカーでは CBE の使用は認められているが、配合率が高くなると風味が落ちると言われている。また欧州ではチョコレートとしての基準を満たすには CBE の配合率は最高でも 5%までの使用しか認められていない。

～ココアバター価格高騰について～

カカオ豆はその成分のほとんどがココアバターとパウダーに分けられる。

チョコレートには通常、約 20%のココアバターが含まれている。原料が高騰している中、コスト削減を模索しているアジアや欧州のメーカーは、ココアバターをその代替品へと切り替えている。

ココアバターの価格は需要の増加と、圧砕業者からの供給減により 28%上昇しトンあたり現在 \$8200 付近となっている。全世界でのココアバター代用品の生産許容量は、年間で 15 万トンであり 2013 年次より 2 万 5000 ～3 万トン伸びた。

パーム油価格は過去 5 年での最安値をつけているにも関わらず、パーム油由来の CBE 価格は上昇している。

またパーム油以外の CBE としてはその他の植物油脂由来のものもある。

栄養士によるとどちらも体にはあまり良くない物質とされる。どちらも飽和脂肪酸値が高くコレステロール値を上げる要因となる。

### 4、コートジ：大量の降雨により、農地で気温低下の懸念(9/8)

先週コートジのカカオ豆の主生産地では大量の降雨があったが、一部の農家はそれにより気温が低下し、カカオ農地を雲が覆いカカオ豆のメインクロップの生育を阻害することを懸念している。

世界最大のカカオ豆産地であるコートジでは、9月7日までに約176万トンのカカオ豆が収穫された。世界的なカカオ豆の供給不足が原因となり、今年の初めからカカオ豆価格が高騰している。

しかし先月、状況が一変した。国際カカオ協会は7万5000トンのカカオ豆不足を予測していたが、逆に今度は4万トンの供給過剰になると見込んでいる。それを受け、今週月曜日はニューヨーク先物価格の12月きりの価格は0.9%（約\$28）減少し\$3074となった。またロンドン先物価格の12月きりの価格は0.4%下落し1976ポンドとなった。

コートジの農家は「カカオの花やカカオポッドは、のちに10月～11月になると成熟しやがてカカオ豆が取れるようになる。今月の天気は、カカオ豆のサイズや、収穫期間を決定づける大事な要因となる。コートジの西部のSoubreでは、先週に45mm、今週に35mmの雨が続いた。

メインクロップの状況は良さそうだ。すでにたくさんの大きなカカオポッドが木になっている。今月の終わりまでにはカカオ豆の収穫ができるだろう。」と述べた。

同様に西部のDaloa, Gagnoa、南部のTiassale, Agbovilleでもカカオが順調に生育してる様子がみられる。Daloaの農家は「先週、3度の雨があった。天候条件も良く11月からはたくさんのカカオ豆の収穫が期待できるだろう。しかし心配なのは雨が少し多く、湿度が高い。カカオ豆の水分値が高くなりブラックポッド病の原因となる恐れがある。」と述べた。

西部のDuekoueの農家は「ここしばらくは雨が多く、太陽が見られない。農薬などでも効果がないブラックポッド病にかかってしまう心配がある。」と述べた。

また南部のDivoの農家は、低温の気候について懸念を示しており「もしこのまま気温が低いままであると本来であれば12月～1月に収穫が始まる、まだ小さいカカオポッドが耐え抜けないだろう。」と述べた。同様な懸念がSan Pedroでも観測されている。

ある農家は「低温気候によりカカオポッドが木から落ちてしまう。今すぐは深刻な事態ではないが、太陽の照射が必要だ。」と述べた。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545    w-ikuta@tachibana-grp.co.jp